

令和4年度学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立加賀聖城高等学校

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果 () は昨年度	分析（成果と課題）及び改善等
1 GIGAスクール構想による1人1台端末の効果的な活用に取り組み、生徒の学校生活ならびに授業満足度を高める。	① 授業や学校環境のユニバーサルデザイン化という観点を踏まえ、生徒の基礎学力の定着のために授業の進め方や授業内容の工夫改善を図る。	授業がわかりやすいと答えた生徒の割合が A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満	B 96.9% (96.6%)	全ての教職員が、一人ひとりの生徒に対して、理解状況を把握しながら丁寧に授業実践している。そのため、授業内容や教員の指導に対して肯定的である。今後もさらに生徒の興味関心を高める工夫を行うとともに、基礎学力向上に取り組んでいく。
		授業のユニバーサルデザイン化により、生徒の学習環境が改善したと答えた教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	A 100% (66.7%)	個々の生徒への適切な対応を考慮して、見通しを持って学びやすい学習環境構築を目的として、授業のユニバーサルデザイン化を行っている。一人ひとりの生徒に応じた丁寧できめ細かな授業が実践出来ており、生徒の授業満足度は高い。今後もすべての生徒にとって満足感のある授業を行い学習意欲を高めていく。
		定通連携の公開授業も含め、他の授業を見学した回数の平均が A 8回以上 B 6回以上 C 4回以上 D 4回未満	D 3.4回 (6.0回)	生徒の主体的学習を目的とした授業実践を学ぶために県内定時制高校の公開授業に参加している。また年間2回の互見週間を実施した。今後は校内でのChromebookを活用した互見授業をさらに推進し、効果的利活用について資質向上を図りたい。
	② 1人1台端末の効果的な活用に向けて、ICT機器を利活用した工夫された授業を展開し、生徒の学習効果の向上を目指す。	Chromebookを効果的に利活用した授業を行なった教員の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	D 44.4% (66.7%) 前年度はICT機器全体で統計	ICT支援員による校内研修でChromebook活用は全員ができるようになったが、生徒の主体的学習を目的とした授業での利活用状況は低い。学習アプリ等を活用し、効果的な利活用に向けて積極的に取り組んでいく必要がある。

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果 () は昨年度	備考
2 総合的な探究の時間を中心とした地域学習の実践により、生徒の自尊感情を高め、充実した学校生活を送れるよう支援し、社会人として必要な人間力の育成を図る。	① 日々の声掛け等の、粘り強く地道な指導を続け、生徒の基本的な生活習慣を確立する。	欠席・遅刻をしないように努めている生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 食事を通して身体的な健康維持ができていると回答した生徒の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	B 78.9% (76.5%) D 47.4% (23.5%) 前年度は3度の食事を摂取と回答した生徒割合で集計	授業での生徒への声掛けと1ヶ月ごとの皆勤者表彰を行うなど、欠席・遅刻をせず、時間を守ることの大切さを全教職員で指導している。今後も日々の声掛けを積極的に行い、生徒の基本的な生活習慣確立に向けて指導していく。 昨年度より改善されたが、規則正しい食生活が出来ていると答えた生徒は47.4%と半数程度であった。今後も「ほっかほかタイム」等の食育を通して、身体的な健康維持のために食事の大切さを日々伝えていく必要がある。
	② いじめを含め問題を抱える生徒の早期発見と支援を行い、問題行動の未然防止を図る。	支援連絡会やいじめ対策委員会を通して、生徒の現状を理解し、支援ができていると評価する教員が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	A 100% (90.0%)	先生が親切に相談に応じてくれると答えた生徒は100%、保護者は94.7%である。今後も個々の生徒理解に努め、教職員間で情報共有を密に行っていく。全ての生徒が安全安心な学校生活を送れるように取り組んでいく。
	③ 総合的な探究の時間等で生徒の興味・関心に応じた分野で地域学習を実践する。	充実した取組ができたと回答した生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	A 100% (83.3%)	生徒が希望したグループごとの生徒主体の探究活動を行い、中間発表・最終発表とも実施出来た。また、保護者・地域住民と連携した地域学習を目的として「北国街道を歩く会」も実施出来た。生徒には非常に充実した取組となった。
	④ 地域の各種行事やボランティア及び、地域貢献に関わる活動を実践する。	地域の各種行事やボランティア及び、地域貢献に関わる活動に参加した生徒の割合が A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満	A 52.6% (17.7%)	3年ぶりに「大聖寺町中クリーン作戦」(町内清掃)を実施出来た。また、聖城祭には、保護者だけでなく近隣住民の方に参加して頂くことが出来た。今後も、学校行事や総合的な探究の時間を通して、高校生の視点から地域貢献の重要性を伝えていく。

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果 () は昨年度	備考	
3	生徒の能力や特性に応じた個別の支援計画を作成、共有、活用することで生徒の進路実現の充実を図る。	① 生徒が、自己の能力・適性を理解し、学習意欲の向上を図れるように、資格取得に向けた指導を行う。 ② 卒業までを見通した指導計画に基づき、生徒各人の能力・適性に応じた支援・指導を行う。 ③ ハローワークや地域の企業等と連携して、生徒の就業の支援・指導を行う。	検定・資格取得・コンクール出展に取り組んだ生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 自己の進路に関する関心が高まったと回答した生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 就業率（アルバイトを含む）が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	D 42.9% (83.3%) A 89.4% (76.5%) C 52.3% (52.9%)	漢字検定には5名が受験して3名が合格した。加賀ふるさと検定には4名が受験したが、合格者はいなかった。全商簿記検定には5名が受験して3名が合格した。情報処理検定には2名が受験して2名が合格した。今後も生徒に自信を持たせるために、検定受験を積極的に促し、合格に向けて意欲的に取り組ませる必要がある。 定通企業ガイダンスだけでなく、「先輩と語る会」や市内企業見学の実施など進路セミナーを実施出来た。また、日頃の授業や面談等を通して、自分の進路に関する関心が高まった。今後、個々の生徒が進路実現に向けて、具体的に進めるように支援指導を綿密に行っていく。 新型コロナウイルス感染症の影響や、自信がないという理由のため、就業を控えている生徒がいる。今後、ハローワークや地域の企業等と連携し、生徒の自己実現や社会貢献の観点から、アルバイトを含む就業率を上げるよう取り組んでいく。
4	校務分掌の適切な割り振りや業務の平準化を進め、教材研究や生徒理解の充実を図る。	① 職員間の横の連携を強め、積極的に協働し、生徒理解に取り組む時間を確保する。	個々の生徒について、より理解が深まったと感じる教員が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	C 80.0% (90.0%)	本校は校務の平準化を目的として、1人の教員が複数の校務分掌を担当している。そのため、業務遂行に当たり、お互いに声の掛けを行い、職員間の横の連携が十分に図られている。このことで、生徒と向き合う時間が確保できたことが生徒理解に繋がっている。